

# 紫波以南の標高100~130m地帯のササニシキ安定栽培法

(農試 技術部 環境部 果南分場)

## 1. 背景とわらい

米の主産果としての地位を確保し、稲作農家の所得を高めるためには銘柄米とくにササニシキの安定生産をはかることが必要である。このため昭和58年から県および経済連を中心に「ササニシキ10万トン運動」を展開している。10万トン達成のためには従来紫波郡以南の標高100m以下の地域の安定多収もさることながら、それより標高の高い適地域の安定化もまた必要である。

その生産技術の一環として紫波郡以南の標高100~130mの稲作地帯に「銘柄米安定生産総合実証圃」を10か所(試験区教延84)設置し、昭和58年から3か年にわたり試験した。その試験内容は散播成苗を中心に側条施肥、栽植密度等を組み合わせた安定多収栽培の総合実証であり、これまでの種苗を中心とした栽培技術や施肥法等の見直しにより安定生産を図ろうとしたものである。

この結果、昭和58年度は最高収量63.7%<sup>10</sup>か所平均収量54.1%、昭和59年度は70.6%<sup>10</sup>か所平均収量60.3%<sup>10</sup>横行対比108%、昭和60年度最高収量62.3%<sup>10</sup>か所平均収量57.3%<sup>10</sup>横行対比105%となり、品質も向上していることから前述の栽培技術の組立てによる安定栽培が実証された。

以上のような成果に基づき、紫波郡以南の標高100~130mの主要な地域を図示し、各地域毎にこれまで得られた実証結果から栽培技術の組立てを行ったので、普及指導上の参考に供する。

## 2. 技術内容

1). 銘柄米(ササニシキ)栽培拡大可能地域、紫波郡以南の標高100~130m地帯

### 2). 主な技術内容

- 中成苗(播種量70~100g/箱 乾物): 葉齢3.5~4.5葉  
乾物量(g/100本) 2.5~3.5 育苗日数 35~40
- 移植期: 5月10日~5月20日 栽植密度 20.0~22.5株/m<sup>2</sup>
- 施肥法: 全層施肥、側条施肥 ○ 水管理

### 3). 主な拡大可能地域と技術内容

#### 1). 紫波地区

##### ① 育苗

播種期: 4月5日~4月12日  
種類: 中成苗  
播種量: 70~100g/箱 乾物  
様式: ハウス  
育苗日数: 35~40日

##### 苗の形質

草丈(cm)	葉齢(葉)	乾物量(%)	乾物量/草丈 (mg/cm)
13~16	3.6~4.3	2.8~3.5	21.5

##### ② 本田

移植期: 5月12日~5月20日  
栽植密度: 20.0~22.5株/m<sup>2</sup>  
植付本数: 3~4本/株  
所要箱数: 31~35箱/10a  
水管理: 昼間止水 5月20日~6月30日  
中 干 7月1日~7月15日  
間断灌漑 7月16日~8月25日  
落 水 8月30日

本田施肥法

地帯	茨 波				
	灰色台地土		多湿黒木7土		
主な土壌型	全 層		側 条		
施肥方法	全 層		側 条		
基肥(kg/a)	N	0.4	0.4	0.4 ~ 0.5	0.4 ~ 0.5
	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	1.5	0.7	1.5	0.7 ~ 1.0
	K <sub>2</sub> O	1.0	0.6	1.0	0.6 ~ 0.8
追肥(kg/a)	N	減分期 0.2	幼形期 0.2	減分期 0.2	幼形期 0.2
	K <sub>2</sub> O	又は幼形期 0.2	幼形期 0.2	又は幼形期 0.2	幼形期 0.2

③ 生育収量構成要素

秆長 (cm)	有効茎歩合 (%)	幼形期茎葉N (%)	m <sup>2</sup> 当り穂数 (本)	m <sup>2</sup> 当り穂数 (x10 <sup>3</sup> 粒)	登熟歩合 (%)	玄米千粒重 (g)	玄米重 (kg/a)
80.0	75.0	1.8 ~ 2.0	520	40.0	70.0	21.9	61.3

(2) 花巻地区

① 育苗

播種期: 4月5日 ~ 4月12日

種 類: 中成苗

播種量: 70 ~ 100 g/箱 乾粒

様 式: ハウス

育苗日数: 35 ~ 40日

苗の形質

草丈 (cm)	葉齡 (葉)	乾物重 (g/苗)	乾物重/草丈 (mg/cm)
13 ~ 16	3.5 ~ 4.2	2.8 ~ 3.5	21.5

② 本田

移植期: 5月15日 ~ 5月20日

栽植密度: 20.5 ~ 22.0

植付本数: 3.5 ~ 4.5 本/株

所要箱数: 31 ~ 35 箱/10a

水管理: 昼間止水 5月20日 ~ 6月24日

中 干 6月25日 ~ 7月10日

間断澆灌 7月11日 ~ 8月30日

落 水 9月5日

(中干し3 ~ 5日後に作溝を行う)

本田施肥法

地帯	石 鳥 谷 花 巻				
	黄色土、多湿黒木7土		黒木7土		
主な土壌型	全 層		側 条		
施肥方法	全 層		側 条		
基肥(kg/a)	N	0.4 ~ 0.5	0.4 ~ 0.5	0.4	0.4
	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	1.5	0.7 ~ 1.0	0.5	0.7
	K <sub>2</sub> O	1.0	0.6 ~ 0.8	1.0	0.6
追肥(kg/a)	N	減分期 0.2	幼形期 0.2	減分期 0.2	幼形期 0.2
	K <sub>2</sub> O	又は幼形期 0.2	幼形期 0.2	又は幼形期 0.2	幼形期 0.2

③ 生育収量構成要素

秆長 (cm)	有効茎歩合 (%)	幼形期茎葉N (%)	m <sup>2</sup> 当り穂数 (本)	m <sup>2</sup> 当り穂数 (x10 <sup>3</sup> 粒)	登熟歩合 (%)	玄米千粒重 (g)	玄米重 (kg/a)
75 ~ 80	70以上	1.8 ~ 2.0	460	36.0	75.2	22.3	60.2

(3) 和賀地区

① 育苗

播種期: 4月5日 ~ 4月10日

種 類: 中成苗

播種量: 70 ~ 100 g/箱 乾物

様 式: ハウス

育苗日数: 35 ~ 40日

苗の形質

草丈 (cm)	葉齡 (葉)	乾物重 (%)	乾物重/草丈
14~17	3.7~4.5	2.8~3.5	2.15 (mg/cm)

② 本田

移植期: 5月15日~5月20日      栽植密度: 21.0~22.5 株/m<sup>2</sup>  
 植付本数: 3.5~4.5 本/株      所要箱数: 31~35 箱/10a  
 水管理: 昼間止水 5月20日~6月29日, 中干 6月30日~7月10日  
 間断灌漑 7月11日~8月30日, 落水 9月15日

施肥法

地帯	和			
	灰色低地土, 褐色低地土		多湿黒ボク土	
主な土壌型	全層		側条	
施肥方法	全層		側条	
N	0.4	0.4	0.4~0.5	0.4~0.5
基肥 (kg/a)	P2O5	1.5	1.5	0.7~1.0
	K2O	0.8	1.0	0.6~0.8
追肥 (kg/a)	N	減分期 0.2 又は幼形期 0.2	幼形期 0.2 0.2	減分期 0.2 幼形期 0.2
	K2O			

③ 生育収量構成要素

稈長 (cm)	有効茎歩合 (%)	幼形期茎葉N (%)	m <sup>2</sup> 当り穂数 (本)	m <sup>2</sup> 当り粒数 (x10 <sup>3</sup> 粒)	登熟歩合 (%)	玄米千粒重 (g)	玄米重 (kg/a)
80.0	75.0	1.8~2.0	520	40.0	70.0	21.9	61.3

4) 金ヶ崎, 胆沢地区

① 育苗

播種期: 4月5日~4月10日  
 種類: 中成苗  
 播種量: 70~100 g/箱 乾籾  
 様式: ハウス 育苗日数: 30~40日  
 苗の形質

草丈 (cm)	葉齡 (葉)	乾物重 (%)	乾物重/草丈
14~17	3.3~4.2	2.5~3.0	2.00 (mg/cm)

本田施肥法

地帯	金ヶ崎, 胆沢			
	多湿黒ボク土, 灰色多湿黒ボク土, 灰色台地土		側条	
主な土壌型	全層		側条	
施肥方法	全層		側条	
N	0.4	0.4	0.4	0.4
基肥 (kg/a)	P2O5	0.5	0.7	0.7
	K2O	1.0	0.6	0.6
追肥 (kg/a)	N	減分期 0.2 又は幼形期 0.2	幼形期 0.2 0.2	減分期 0.2 又は幼形期 0.2
	K2O			

② 本田

移植期: 5月10日~5月20日  
 栽植密度: 21.0~22.5 本/株  
 植付本数: 3.5~4.5 本/株  
 所要箱数: 30~35 箱/100cm  
 水管理: 昼間止水 5月20日~6月24日  
 中干 6月25日~7月10日  
 間断灌漑 7月11日~8月30日

③ 生育収量構成要素

稈長 (cm)	有効茎歩合 (%)	幼形期茎葉N (%)	m <sup>2</sup> 当り穂数 (本)	m <sup>2</sup> 当り粒数 (x10 <sup>3</sup> 粒)	登熟歩合 (x10 <sup>3</sup> 粒)	玄米千粒重 (g)	玄米重 (kg/a)
78.0	70.0以上	1.7~2.0	450	33~35	80	22.5	59.4

### 3. 指導上の留意事項

- 1). 主要地域の設定は当該普及所、および専技等との協議により定めているが、厳密な区分けはなく地域の実態にあわせて移動する。
- 2). 主要地域の設定は標高100~130mの地域としているが、土壌条件等も勘案しているのでもたずしも標高だけではあてはまらない地域もある。
- 3). 技術内容についてはあくまで3か年の試験圃の成績から導き出しており、地域内でも各々の環境条件にあわせて内容の吟味と変更が必要である。  
また、生育・収量構成要素についても期待値ではなく、実際の成績から導き出しており、実現可能な値である。

### 4. 試験成績

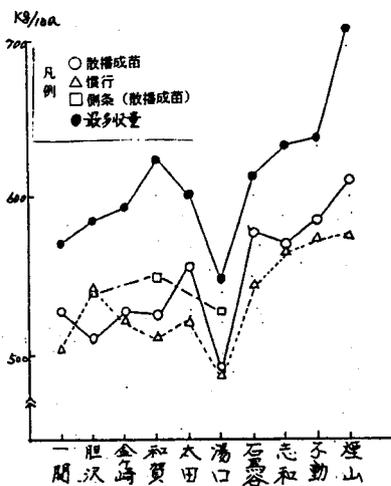


図1 銘柄米総合実証圃収量  
(3か年平均昭58~60年)

